typetalk

by nulab

導入事例集

導入事例　CASE 01　株式会社point0　　2020年取材当時

.0 (point0)

事業内容：情報・通信業

設　　立：2018年

2018年2月にダイキン工業が発表した一枚のプレスリリースからスタートした、空間データの協創／共創プラットフォームCRESNECT構想。たった二人の思いから始まったこの取り組みに賛同頂ける企業が次々集まり、2018年7月には業界の垣根を超えた６社共同でのプレス発表が実現。そして、協創型プラットフォーム「CRESNECT（クレスネクト）」が立ち上がり、プロジェクトの一環として2019年7月にコワーキングスペース「point 0 marunouch」が誕生しました。

オープンイノベーションを進めるためのコミュニケーションの工夫とテレワークで活用

概要

ダイキン工業、オカムラ、ライオン、パナソニックなどの大企業が「働くを再定義する」というコンセプトのもと集まり創業した株式会社point0のプロジェクトでは、オープンイノベーションの企画立案・実験のためのオンラインコミュニケーションにTypetalk、ドキュメント管理やナレッジの共有にBacklogが活用されています。

課題

- 所属企業をまたいだやり取りにメールを使用すると結論を出すまでのリレーが多くなり非効率だった
- コロナ禍により急きょテレワークを実施。オンライン空間でもオフラインと変わらないコミュニケーション環境にしたい

結果

- メールからTypetalkに100%移行したことで、各社がもっている情報や経験値などを組み合わせやすくなり、新しい価値を創造しやすくなった
- テレワークを実施したがTypetalkでのコミュニケーションに円滑に移行でき雑談が増えた。オンライン環境でもメンバー間に連帯感が生まれた

新規事業の企画立案・実験にはスピーディなチャットコミュニケーションが欠かせない

具体的にどのようなコミュニケーションをされているのでしょうか？

たとえば、point 0の役員会議で話きれなかったことをTypetalkで継続して議論することもあります。役員同士の週次会議で「これからpoint 0をどうしていくか？」「どう手を打っていこうか？」「実験とはなにか？」ということを議論しています。

コミッティメンバーの実験に関する相談などでもTypetalkを活用しています。最近だと「コロナ禍のためコワーキングスペース利用者に直接アンケートが依頼できなくて、集客に困っています」という投稿がTypetalkにされると各方面から一斉に「アンケート回答しました！」という返信がありました。実証実験のスピードを緩めないための連帯感や反応の早さなどはTypetalk上にうまく醸成されていますね。

テレワークを実施したそうですが、Typetalkを使ったコミュニケーションはどのように進めましたか？

全員がオフラインで顔を合わせられなくなり雑談をする機会も少なくなる、と思いきや、Typetalkの雑談トピックがとても活発になりました。

何気ない投稿が発端となってぐわぁー！と盛り上がることもあります。

たとえば「スーパードライいただきます！」とか「気分転換に皇居のまわり走ってます」みたいなメッセージ。Typetalkではメッセージに♡（いいね）を送れるボタンがついていて、こうした何気ない雑談にすごく♡がついたり、コメントがついたりしました。コロナ禍でのテレワークコミュニケーションではTypetalkの何気ない雑談をとても重宝しています。

Typetalk導入の効果をどのように感じていますか？

Typetalkのようなビジネスチャットツールは単刀直入に要件を提示してやり取りできるので、コミュニケーションの敷居が低いと感じています。まさにTypetalkは「スピーディにやりとりが進む」というのはメールにはない効果です。

具体的なエピソードとして、金曜日の夕方に役員内で早急に結論をまとめないといけない議題があったのですが、もしメールで6人分の意見を調整するとしたら翌営業日の月曜日に結論がやっとまとまる、という事態が起きかねなかったです。Typetalkでコミュニケーションを取ったおかげで、当日の金曜日の夜には結論がまとまりました。

Typetalkは「返信はいらないので♡をください」と指示できるから、返答する側としても返答しやすいんですよね。メールだと「OKです」とかなにかしらの返事をしないといけないし、返信が被ったりして、意見がなかなかまとまらない。

緊急度が高いトピックのやりとりはメールじゃなくTypetalk一択です。

nulab 株式会社ヌーラボは「“このチームで一緒に仕事できてよかった”を世界中に生み出していく。」をブランドメッセージとし、「楽しく仕事ができる人、チームを増やしたい」という思いをもとにサービス開発、提供を続けています。

導入事例　CASE 02　株式会社ベイジ　　2019年取材当時

管理画面の分かりやすさ、機能のシンプルさ、操作性の高さに魅力を感じました

baigie

事業内容：Web制作

設　　立：2010年

株式会社ベイジは、BtoBのマーケティング支援からのWebサイト制作と、業務システムやSaaSなどのUX/UIデザインを得意とするWeb制作会社です。事業の比率としては、8割はBtoBのマーケティング支援、2割は業務システムのUX/UIデザインになっています。受注した案件はほぼすべて内部のスタッフで対応しており、翻訳や撮影などを除くと、戦略から納品、公開後の運営に至るまで、ワンストップで仕事を完結させています。

概要

株式会社ベイジではWeb制作のコミュニケーションにTypetalkを利用しています。同社では、Web制作業務を140のタスクに分解した独自のワークフローと業務効率化ツールの活用で、たった14名の少数精鋭でありながら、生産性を追及した洗練されたWeb制作を実現しています。代表の枌谷さんに、Typetalkを使った効率的なコミュニケーションとWeb制作の進め方についてお伺いしました。

課題

- 海外産のチャットツールだとかゆいところに手が届かない感覚があり、サポートやドキュメントも物足りなかった
- ユーザー権限など管理画面が日本語対応がされておらず使いづらさを感じていた。

結果

- Typetalkの通知やいいね機能を活用したことで情報の確認漏れが減り、シンプルなコミュニケーションが可能になった
- 日本語ドキュメントを参考にしてGoogleカレンダーなどの外部ツールと連携し、業務の効率化を促進できた

カスタマイズ時のドキュメントも日本語で豊富。海外産のコミュニケーションツールにはない魅力

Typetalkを導入した理由を教えてください。

同業の知人からの紹介でTypetalkを使いはじめました。実は、2年前まではSlackを使っていました。しかし、管理画面の使いづらさや海外産であるがゆえのUIの分かりにくさに、当時は物足りなさを感じていました。

そこですすめられるままにTypetalkを使ってみたところ、管理画面の分かりやすさ、機能のシンプルさ、操作性の高さに魅力を感じました。

当時のSlackに感じていた物足りなさが解消する予感がして、すぐに「これだ」と思いました。

業務の効率化にTypetalkを活用できていますか？

スケジュール管理から交通費申請まで細かい業務をTypetalkで効率化しています。

例えば、リリーススケジュール管理はGoogleカレンダーとTypetalkを連携しています。弊社はリリーススケジュールをGoogleカレンダーで管理しているので、その予定をTypetalkの特定のトピックに自動で通知するというものです。経費申請は、Typetalkボットを使って交通費申請の提出の自動化もしていますね。

TypetalkはAPIが豊富なので、外部のツールとの連携の幅がとても広いと感じます。さらに、Typetalkを使っていて感じたのは、国産のツールならではの魅力が豊富という点です。カスタマイズ時のドキュメントも日本語で豊富ですし、海外産のコミュニケーションツールにはない魅力が多いですね。

Typetalk導入前と導入後で変化はありましたか？

Typetalkは通知機能がシンプルで分かりやすいので、メッセージの未読などが原因で起きる「情報共有の漏れ」は減りました。

私は経営者として経営に関する業務をしながら、コンサルタントとしてWeb制作プロジェクトの最初の窓口の担当をしつつ、時には自分でデザインもします。日々扱う情報がとにかく多く、情報がどんどん流れていくチャットツールはスピードと引き換えに、情報の確認漏れを起こしがちなのですが、Typetalkのデザインや機能は、こうした膨大なお知らせを、対象者に見やすく分かりやすく通知してくれるので、問題をある一定は解決してくれました。

nulab 株式会社ヌーラボは「“このチームで一緒に仕事できてよかった”を世界中に生み出していく。」をブランドメッセージとし、「楽しく仕事ができる人、チームを増やしたい」という思いをもとにサービス開発、提供を続けています。

導入事例　CASE 03　福岡市役所　　2019年取材当時

会話効率アップ！福岡市役所がメールからTypetalkに移行した理由とは？

概要

福岡市総務企画局企画調整部の公式コミュニケーションツールにTypetalkが導入されています。「出張や移動時の会話や文書ファイルの送付にTypetalkを重宝している」と話す総務企画局企画調整部グローバルスタートアップ推進担当課のご担当者に、メールからTypetalk移行で実現した会話効率の変化をお伺いしました。

福岡市 FUKUOKA CITY

事業内容：地方公共団体

利用事業部：総務企画局企画調整部、コンテンツ振興課

平成26年に国家戦略特区「グローバル創業・雇用創出特区」に選ばれた福岡市は、これまでにない新しい価値や製品、サービスを創り、グローバルなマーケットにチャレンジしていくことが実現できる「スタートアップ」の拠点となることで、雇用の創出や福岡市経済の活性化を図っています。その中でも「海外展開を見据えた創業環境づくり」を目的としたグローバルスタートアップ推進事業を、総務企画局企画調整部で担当。市内の起業家のグローバルマインド育成の取り組みから具体的なビジネスのアドバイスまで、幅広く活動しています。

課題

・メールは情報やファイルが乱立して、ミスコミュニケーションが起こりがち。海外出張先で情報を振り返るのに無駄な時間がかかる

結果

・優れた検索性と可読性の高さで情報を整理。モバイルアプリの活用でコミュニケーションの時短を実現。セキュリティ要件もクリア

コミュニケーションの「時短」に成功！メールからTypetalk切り替えの効果

Typetalkはどのような場面でご活用されているのでしょうか？

海外でのイベントに関する調整ごとで主に利用しています。

具体的に2つの用途で利用しています。1つ目は、福岡市として海外イベントに参加する際の関係資料の送付や調整で、2つ目は、 STARTUP CITY FUKUOKAとして海外イベントにブースを出展する際の内部連絡で活用しています。

私たちの部署はどうしても移動や出張が多いので、場所を問わずに連絡ができるTypetalkのモバイルアプリを活用しています。

使い勝手の面ではメールと比較していかがでしょうか？

情報整理という面で「時短」的な使い勝手の良さを実感しています。Typetalkは検索性が高いので「あの時送ったイベントの資料はどこにあるんだっけ？」という後からの検索がとてもしやすいんです。

Typetalkはキーワード単位や日付単位、あとは添付ファイルの有無といったフィルターをかけて検索できるので、情報がすぐに出てきます。

どこに何の情報があるかメールだとわかりづらいですし、あの時のファイルがと言われても、メールだとすぐに見つからない。加えて、特に海外だと時間も限られてしまう。その点、Typetalkはあとからの振り返りや記録の管理がとてもしやすいです。

検索性の高さがコミュニケーションの時短に貢献しているんですね。

検索性以外にも見た目や機能のデザインもコミュニケーションの時短につながっていると思います。例えば、Typetalkは@メンションや、ライン形式で会話を紐づけることができます。メールは同じ件名で複数の話題が同時に展開され、会話が乱立してしまいがちですが、Typetalkは会話の混乱が生まれないように上手にデザインや機能が設計されています。

まとめ機能も時短に貢献してます。点在している情報を1つに集約して、さらに担当者が認識しやすいようにラベリングできます。必要な情報が一箇所にまとまっていることで、海外にいるときに「この情報が大切」と円滑に認識を合わせられます。

nulab 株式会社ヌーラボは「“このチームで一緒に仕事できてよかった”を世界中に生み出していく。」をブランドメッセージとし、「楽しく仕事ができる人、チームを増やしたい」という思いをもとにサービス開発、提供を続けています。

導入事例　CASE 04　福岡大学工学部電子情報工学科　2019年取材当時

修論・卒論もクラウドで管理！Backlogと Typetalkを使ったIT時代の教育現場最前線

概要

福岡大学工学部電子情報工学科は、学生の修論・卒論プロジェクトでBacklogとTypetalkを活用しています。学生10名分の研究のタスク管理をWikiからBacklogに移行したことで、教員側の進捗管理が効率化され、膨大な量のメールの削減に成功。「学生と教員のコミュニケーションが改善だけでなく、学生へのビジネスマナーの指導の促進にもつながった」と語る先生方に、導入効果をお伺いしました。

事業内容：教育機関（大学）

利用学部：工学部電子情報工学科

福岡大学工学部電子情報工学科メディア工学研究室は、音声・画像を対象とした情報システムの開発をメインに、他学部の研究室と連携しながら様々なシステムやアルゴリズムを開発。
プロジェクト全体の構成メンバーは学部生・大学院生合わせて約40名に教員5名、理学部地球圏科学科の教員1名と学生20名程度，それぞれ、研究テーマごとにグループに分かれて研究を行っています。

課題

・学生から送られてくる、修論・卒論プロジェクトの進捗報告メールの量が膨大だった

結果

・Backlogの更新情報をTypetalkに通知することでメールを使わずにプロジェクトの進捗を確認。膨大なメールの量を削減に成功

修論・卒論プロジェクトで発生していた膨大な量のメールをTypetalkとBacklogで削減

Typetalkの利用経緯についても教えてもらえますか？

Typetalkは、Backlogで管理しきれない特殊な研究で活用しています。Backlogはシステム開発のような工程には最適ですが、ステップを組み立てにくい研究だと利用が難しいと感じます。

例をあげると、理学部と共同で進めているミツバチの研究は、生物が対象なので当初決めたやり方では進まないことも多いです。こちらの研究ではノートをベースにタスクを管理しています。Typetalkをオンラインのノート代わりにして、研究の進捗内容の共有など、プロジェクトメンバーに情報共有をしています。

TypetalkとBacklogを研究内容に合わせて使い分けているのですね。

Typetalkは連絡、議論（確認）、リアルタイムコミュニケーションにして、Backlogはエビデンスの報告と言う目的で使い分けています。例えば、私の研究室では、Backlogのプロジェクトと Typetalkのトピックを同じ名前にして、Backlog側のプロジェクトやWikiなどで更新があったら、所定のTyptealkトピックに自動通知されるようにしています。

また、Backlogを導入する前の主なタスク管理はWiki、Typetalkを導入する前のコミュニケーションはメールでした。以前はWikiの更新に紐づくタスクの進捗はメールで報告される形式を取っていましたが、現在はメールはほとんど使用していません。

プロジェクトチームは合計5チームあるのですが、教員はこのすべてのチームの進捗を監視しなければならず、通知メールも膨大でした。BacklogとTypetalkの連携機能を使うようになってからは、膨大な量の通知メールを削減できました。

Typetalkの導入は学生への教育効果にも影響があるのでしょうか？

BacklogとTyptalkのようなコラボレーションツールの導入は、教育現場特有の難しさがあります。企業のシステム開発はタスクの期限が重要視されますが、教育現場ではタスクそのものが曖昧で明確化されていないことも多くあります。だからこそ、卒論など期限が不明瞭で無計画に運用されがちなものを教員側でBacklogなどを用いて管理することで、学生にプロジェクト管理の重要性を体験してもらえます。

コミュニケーションについても同じです。以前は、世間的にもビジネスでチャットを使うのはあり得ない！という考え方でしたが、その考え方は変わってきています。こうした新しい習慣を学生に早期から身につけさせることで、新社会人になったときにも重宝されます。ツールに慣れてもらう過程で、コミュニケーションの根本にある報告・連絡・相談のような「ビジネスマナー」を改めて学生に指導もできます。

将来的な教育効果を見据えて、BacklogやTypetalkのような新しいツールを学生に手ほどきすることが現代の教員として持つべき姿勢だと思います。

nulab 株式会社ヌーラボは「“このチームで一緒に仕事できてよかった”を世界中に生み出していく。」をブランドメッセージとし、「楽しく仕事ができる人、チームを増やしたい」という思いをもとにサービス開発、提供を続けています。

typetalk by nulab

本資料に関するお問い合わせや相談は
以下までご連絡ください。

お問い合わせフォーム